



## ② 区ごとの意見交換

## 【川崎区】

- ・今までは箱物行政が主だったが、市民レベルで地域の問題を解決しないといけないという時代が来ている中で、素案は一つのヒントになる。
- ・若い人が入れるきっかけがなかったから、若い人が食いつくキャッチなものがあると良い。
- ・子ども・高齢者というワードはあったが、若者というワードがない。若者のきっかけがあると良い。
- ・学生、移住組、単身世帯など、居場所や地域へのエントリーが難しい。いろいろなエントリー方法があってフラット化できると良い。
- ・イラストにいろいろなまちのシーンがあるのが素晴らしい。
- ・素案について、小学校区と言いつつ、小学校があまり入っていない。空き教室など活用して、地域活動と小学校をより密にすることが素案に入っていることが良い。
- ・まち歩きをしたが、知らない場所などいろいろな発見があった。小学校区でまち歩きなどすれば、新たな発見があるのでは。学校を通じていろいろな場を知れば良い。
- ・「(仮称) ソーシャルデザインセンター」を区ごとの特色を活かしてやるという点が good! でも時間がかかりそう。
- ・「(仮称) ソーシャルデザインセンター」に期待しています。
- ・みんな稼ぐことで必死。忙しい。入って欲しい人の生活事情がある。
- ・行政主導で、委員が固定された区民会議に若い委員が参加していれば変わっていたはず。
- ・新しい人と交わっていくために、川崎区まちづくりクラブは1回の公募（いろいろな形があるが、個別に声掛けした）しかしていないので、担う人が少なくなっている。川崎区は中学校区でまちづくりクラブをつくった。どんどん固定化されていっている。情報交換の場がない。もっと広い目で見ると、より小さい目線で見ると。
- ・既存（地縁）の人と新しい人を、どう仲良くやっていくのか。町内会・自治会の新しいしくみをもっと示してくれると良い。
- ・どれくらいの職員が区で働いているのか。また、実際に町内会・自治会で役割を持っている職員はどれくらいいるのか。すごく少ないだろう。
- ・区に自分事として考える職員がいないとダメ。
- ・素案は全体的に難しいが、新しい試みというのが感じられた。
- ・企業市民交流事業というものがあって、これは川崎区特有のもの。普段なかなか入れないところに入れる出前授業もある。インスタ映えツアーにはかなりの人が集まった。
- ・どうやったら地域活動人口が増えるかを考えないといけない。
- ・同世代（若い世代）が少ない
- ・20代～60代が公共に関わらないのは危ない。





## ② 区ごとの意見交換

## 【幸区】

- ・居場所として、パブや飲み屋でも、サードプレイスがあることが大切。
- ・「(仮称) まちのひろば」、サードプレイスという考え方がすごく良い。子どもの貧困問題など、地域にはいろいろな課題があるが、そういった問題にも機能できる場が必要。
- ・「(仮称) まちのひろば」が多種多様にできていけば良い。
- ・「(仮称) まちのひろば」の4つの類型が示されているが、自分の活動として、すべての類型に関わっている。
- ・子どもの居場所がないのはかわいそう。遊び、勉強の場があれば、こども文化センターは行きたくない子もいる。いろいろな場があって、情報があれば良いと思う。
- ・昼間両親が働いているような子どもとは、学校のソーシャルワーカーを通してつながっている。
- ・商店街、買物難民、個人経営などの出店が減り、業種が限られていて、客も困っている。商店会に入らない店も増えている。地域のつながりが無い。
- ・人のつながりが希薄になったと肌身に感じる。居場所、やり方はあるが、資金等の問題もある。地域の課題解決は、地域住民だけでも行政だけでも難しい。
- ・居場所、たまり場づくりをしているが、本当に来てもらいたい人とどうやってつながるか。日中独居の方とのつながり方に困っている。
- ・南河原中学校のエリアで活動を考えている。
- ・「(仮称) ソーシャルデザインセンター」の名称は変えた方が良い。ハードルが高そうなイメージ。
- ・「(仮称) ソーシャルデザインセンター」は、誰がどのようにつなげていくのか。
- ・「(仮称) ソーシャルデザインセンター」、本当に情報を取りたい人が「(仮称) ソーシャルデザインセンター」。
- ・コーディネーターの役割は何だろうか。今あるものではダメなのか。今あるものを活かすのはダメなのか。現状の課題(何が足りないのか)の整理、調査が必要。
- ・民間に任せるだけではダメ。手綱は行政が担って欲しい。
- ・トライアンドエラー、スモールスタートという考え方は良い。今までの役所にはない考え方。
- ・素案を読んだが、言葉が分かりづらい。キャプションはついていますが、横文字が多い。
- ・個人情報の問題はあるが、「情報」をどう共有していくかが課題(困っている人を把握しているのは行政)。





## ② 区ごとの意見交換

## 【中原区】

- ・市民創発のイメージが湧かない。
- ・「市民創発」というワードの意味については、意識のある人だけではないので、キャッチフレーズみたいなものを考えてみてはどうか。
- ・行政が目指すものはわかるが、市民がやりたいことに行政がどう乗っかるかというしくみが見えてこない。
- ・理念は示されたものの、それをどう実践していくかが大変難しいと思う。考えているうちに、また概念は変わっていくと思う。
- ・市民に丸投げしている感じが否めない。市民の皆さんと…ということと、行政が手を抜くこととはき違えているのでは。
- ・人口増加がしばらく続くので、人口増加にも対応できるしくみが必要。
- ・市民同士のつながりをつくるしくみが必要。
- ・官民連携ができるしくみが必要。
- ・外国人にも参加できるしくみが必要。
- ・「(仮称) ソーシャルデザインセンター」や「(仮称) まちのひろば」を成り立たせるためには、運営主体、人材の育成が必要。
- ・「(仮称) まちのひろば」のイメージは今までになかったもので魅力的である。
- ・「(仮称) まちのひろば」のイメージ図が良い。今までの行政と異なるイメージを持てる。
- ・小さい団体が地域の小さい単位で活躍できると良い。
- ・活動拠点としている場（建物）の敷居が高いので、抵抗なく入れる工夫が必要。
- ・多世代の集まりとかよくあるが、何かテーマがないと集まらないのではないかな。
- ・何かテーマがあった方が集まりやすい。テーマは何でもよい。そういったしくみが必要。
- ・スポーツ推進委員をしているが、ニュースポーツのノウハウを伝える場所、きっかけの場がないので、紹介できる場があると良い。
- ・総合自治会館を、活動支援の場や実践できる場として活用してはどうか。
- ・行きたくても行けないという人をどうカバーしていくか。
- ・参加したくても、距離的な制約から難しいこともある。居住地の近くで安全に参加できる身近な場が多くあることが望ましい。
- ・学校・PTAと地域との関りが少ない。
- ・怪しいグループ等も出てくるのでは。
- ・参加する側が、今度は活動側に回れば、様々な問題がクリアしていけるのではないだろうか。
- ・「(仮称) ソーシャルデザインセンター」「(仮称) まちのひろば」にはコーディネーター、プロデューサーなどの人材育成が必要。
- ・中原区役所内にある「なかはらっば」が、もう少し使いやすい機能にしていけば、「(仮称) ソーシャルデザインセンター」に近いものができるのではないかな。
- ・学校などのPTA活動を担っている人は正直いっぱいいっぱいという印象。この世代がこの話

を担うのは難しいと思う。担うのはどうしても余裕のある（シニア）世代。そうなるとなり手が重複してきてしまう。

- ・「(仮称) ソーシャルデザインセンター」は市民の声と行政をつなげる中間支援組織ということなのか。
- ・「(仮称) ソーシャルデザインセンター」の担い手は包括支援センターが担うのか。
- ・中間支援は大変。自分で動いた方が楽。
- ・「(仮称) ソーシャルデザインセンター」は行政が楽をしようと取られるのでは。
- ・「(仮称) ソーシャルデザインセンター」に関わる市民に対しては、経済的負担の保障をしっかりと行っていただきたい。
- ・市民の意見を反映できるしくみが必要。
- ・まちづくり委員会などについては、一気に変えるのではなく、過渡期的なものがあってもいいのでは。不安を覚える。
- ・まちづくり推進委員などになると区役所に足を運ぶ機会が増えた。一緒に頑張るという意識を持つことができた。
- ・区民会議やまちづくり推進委員会など、行政と一緒に地域の課題解決に取り組んできたものを廃止することと、今回のコミュニティの検討の話は別の話ではないのか。
- ・市民提案型事業については、行政の上から目線。市民の自発的な活動は、今の考え方では生まれられないのではないか。市民の声を形にするしくみが必要なのでは。
- ・例えば、転入手続きなどで区役所に行った際に、町内会加入の取組を促進することが必要。
- ・マンションの住人も建物自体も高齢化。解決には多世代交流ができる「ひろば」が必要。
- ・単身世帯（特に若い人）の割合が多いので、町内会・自治会に加入しておらず、成り立たない。
- ・行政職員も意識を改めなければ、縦割りも解消しないのでは。
- ・区を良くしていきたいという意識を大切にしたい。職員にも持って欲しい。
- ・行政職員の市内在住率は、6割ぐらい。行政職員も一緒になって（地域を）どうしていくのか考えていきたい。区の職員は区内在住者の方が良いのでは。
- ・行政職員はすぐに異動してしまう。新しい職員は「来たばかりなので分かりません」と言うが、職員の意識が大切なのでは。できないならできないなりに市民の意見を聞いて動いて欲しい。
- ・行政職員は土日には出てこない。
- ・仕事ではなく、土日とかに職員が遊びに来てくれることも大切なのでは。土日は休みなので（仕事ではないので）と言われる。
- ・行政の縦割りをなくし、行政と市民が協働でネットワーク型でのコミュニティづくりに向けた取組が必要。
- ・縦割り・横割りと言っていることがダメ。
- ・具体的なイメージが見えてこない。
- ・立地、交通の便で川崎に住むのではなく、川崎に住みたいと思わせる川崎の魅力が足りない。
- ・区民全員が認識しているわけではないので、隅々まで周知して行って欲しい。
- ・個人情報扱うことについては、市民では難しいのではないのか。
- ・情報の取扱いが難しいのでは。
- ・全体的なスケジュール感、スピード感が分からない。



# 全市シンポジウム 「希望のシナリオ」

～これからの地域づくりを考える～



## ② 区ごとの意見交換

### 【高津区】

- ・「創発」がキーポイントと感じた。市民が行政を利用する。市民を信頼していると感じた。
- ・自分の体験（子ども会に加入）で、情報が欲しくて待っていても入ってこないこともある。
- ・こういう場に出て来ない人たちに、どうアプローチしていくのか。
- ・つながりたい人は8割。実際やっている人は少ないが、8割に対する働き掛けが重要。市でやっていることは、あまり伝わらない。市政日よりやフロンターレを活用して、希望のシナリオを配布するなど、いろいろな仕掛けをしてもらいたい。
- ・若い人を巻き込んでSNSを活用してはどうか。一人で外出できない人や高齢者にも発信する。一人でも多くの人に伝えることが大切。
- ・個人の居場所、「(仮称) まちのひろば」に期待。
- ・そこに行った人は、話すことでコミュニティが広がる。
- ・子ども会が活発なところは、子どもから高齢者を引っ張り出す。
- ・一方で、自分たちでコミュニティをつくっているママさんたちもいる。
- ・思い通りにならないことや面倒臭い付き合いを学べるのが子ども会。面倒臭いことには価値がある。
- ・会に入るとどんなメリットがあるのかを上手く伝えて誘う。
- ・放課後の活動は、子どもは来たがるが、親は「何の役に立つのか」と思い、理解してもらえない（習い事より塾）。
- ・道路、公園の使い方など、今の常識を変えていくようなしくみができるかもしれない。
- ・高津区はリバーサイドや傾斜地など、土地柄も違い、区だけでも広い。小さなコミュニティ（場）が大切（今、足りていない）。学生が喫茶店で勉強している。そういった子どもたちのことも考えて欲しい。
- ・楽しいのが一番
- ・「(仮称) ソーシャルデザインセンター」が楽しみ
- ・いろいろな考えの人がいるので、まとめるのが大変。
- ・給料を出せないのが、人集めが大変。いつまで続けてもらえるか不安。対価は必要。
- ・今まで携わってきた方を大切にしながら進めることが大切。
- ・古い町内会・自治会に、この話をしっかり伝えて欲しい。
- ・この考え方を共有できるか。そして、つながりができるか。なかなか難しいのでは。町内会・自治会や子ども会は、特に動かないだろう。
- ・マンションでは子どもを通じて親がつながっている。そこから熊本地震をきっかけに減災グループが誕生した。
- ・行政のあり方、横串（一施策ではなく）にできるか。
- ・行政がポジティブなのが良い。
- ・具体的なことが示されていないと感じた。

- ・いろいろな取組をコラボするのは大切。
- ・この場に 100 人いることにワクワクする。
- ・今日の 100 人が、それぞれあちこちで実行することで広がっていく。
- ・障害者のダンスについて、年齢が上の方はタダが当然だと思っている。営利ではなく、経費分の収入は必要。



# 全市シンポジウム 「希望のシナリオ」

～これからの地域づくりを考える～



## ② 区ごとの意見交換

### 【宮前区】

- ・「新しいしくみ」はいいなと思い、共感したものも多かった。
- ・10年という短いゴールを決めた姿勢は良い。
- ・トライアンドエラーも大事だが、しくみも大事。
- ・無関心層をどうするか。
- ・「市民創発」、「トライアンドエラー」は良いことだが、その先の「シナリオ」というのはよくない。「シナリオ」をつくって、それを目指して「トライアンドエラー」はよくない。
- ・防災が大切だと思うが、「新たなしくみ」の議論に挙がっていない。
- ・横のつながりができていないのが市民側の課題。自分のこだわりを捨てて、手をつながないと。
- ・「(仮称) まちのひろば」は、当初中学校区という話も出ていたが、小学校区というのは良いと思う。
- ・小さいエリア（生活圏）で大きなつながりを持つことが大切。多種多様な団体をつなげていく。それぞれが自分の特異な分野で補完して各団体をつないでいけたら良い。そういうものができれば福祉もつながっていきける。
- ・地域の団体は別の所（エリア）に住んでいる人が参加している場合があり、活動のエリアは町会と異なる。
- ・向丘地区に大きな施設はない。向丘出張所で「むかおカフェ」を開催した。カフェは10時から14時まで開催したが、公共施設の食事（販売）はNGなので、せっかく集まった人が途中で食事のため帰宅してしまった。行政では公共施設で利益があげられないことになっているが、行政が変わらないといけない。カフェの出店者の若い人は利益を得たいと思っている。得られて利益によって地域を活性化していきたい。
- ・事業所（社会的）として、子どもの貧困問題を解決したいという立場にいて、地域のために働く人を応援し、スモールサイズで実現させたい。最低賃金の問題はあるが、移動の問題なども含めてやっていけたらと思っている。
- ・町内会・自治会だけでなく、他の人も加入している商店街、老人会、大学、医師会などの方が、何かあったら解決が早い。会の区域は小学校区が適当だと思う。
- ・子ども会のつながりがとても大事。
- ・多摩区でもカフェ連絡会をやりたいが、なかなかうまくいかない。創造、実行力も大事。
- ・住宅展示場を利用しても面白いのでは。
- ・地域によって動きが違う。今ある動きをつないで具体化していく。
- ・横の部分と縦の部分をどうつないでいくか。「農業」「まちを花でいっぱい」というようなワンテーマ型か。
- ・道にベンチが少ない。
- ・「(仮称) まちのひろば」をつくるのは良いが、地域に1つ何かを作っていきましょうというのはいくはない。「(仮称) まちのひろば」は自然発生的にできていくのが良い。

- ・「(仮称) まちのひろば」のイメージが分からない。地域で作っていくのか。1つのエリアで1つずつ作るのか。町内会で「(仮称) まちのひろば」作っていけば良いのでは。町内会・小学校区で1つ作ればよいのでは。
- ・素案は学識とか入れて検討しているが、そういうのはNG。大切なのは地域の人が考えていくこと。地域でつながっていくことが大切。町内会・自治会よりも社協・民生委員の関わりを強くした方が良い。
- ・誰が進めていくのか。継続して大事にしつつ、新しい世代にどうつなげるか。
- ・「センター」を作るのはよくない。「センター」として地域に1つ作るのはよくない。「(仮称) ソーシャルデザインセンター」という名前が決定でなくて良かった。
- ・生活可能な収入と、楽しみながらまちづくりできるシステムを。
- ・「(仮称) ソーシャルデザインセンター」などの新たなしくみづくりについて、悩んでいるところもあるが、仕掛けづくりがとても難しいと思う。
- ・いつ、誰が、どのように、は難しい。今いる人でどうやるかというのが難しい。そのようなときに皆に聞くと意見が出る。
- ・「(仮称) ソーシャルデザインセンター」をつくるにしても、継続することがとても大変。
- ・区民会議は12年間同じスタイルでやってきたが、素案にはまちづくり協議会への分析がない。7区すべて違うので、現状をしっかり勉強してもらいたい。
- ・まちづくり協議会は、なぜ新しい人が辞めてしまうのか。団体推薦で来た人が来なくなってしまう。
- ・町内会・自治会も甘えている部分はある。「むかおカフェ」には町会長も参加。何をやってよいか分からなかった町会も、参加してやってみて考えることができた。
- ・菅生手つなぎ祭りは13の地区・町内会が参加してやっているが、その内容を見て、向丘地区の町内会も真似をしてやってみたところ、盛況だったとのこと。
- ・町内会・自治会では、大小問題があるが、解決までは難しい。今の町内会・自治会では限界で背負いきれない。
- ・町内会・自治会は、外の意見を受け入れにくいので、どう風穴を開けるか。行政の大きな仕事である。
- ・盆踊りなどの運営が大変。担い手がいない。
- ・公園を利用して、町内会・自治会でお祭りを。
- ・現在の町内会・自治会は任意団体なのであまり応援されていない。
- ・アメリカのドキュメンタリー映画で、「ネイバーフッド」というコミュニティより少し狭い言葉を使っていた。
- ・「職員が変わらないといけない」と言っているが、具体が見えない。そんなに甘いものではない。
- ・「スピード感」といっているのが不安。(結果を求めて) 急いでやるものでない。
- ・市民政策提案を生協としてやっていて、市民の気づき、意識を変える活動も大切。市職員に浸透させるのが大変で、2年はかかるのではないか。ただ、それがないと両輪でやっていけない。
- ・「市民創発」は、行政にとって難しいと思う。協働もやれていなかった。目標としては良いが、行政にもっと勉強して欲しい。縦割りになっていて進まない。行政は、プランはできるがプログラミングができない(3年で異動してしまう)。市民がやらないと。
- ・福田市長の真面目な話を初めて聞いたが、ポジティブ志向だと感じた。



- ・昨日、素案をダウンロードして読んできた。
- ・次々と新しい施策が出てきて戸惑ってしまう。
- ・「ありがとう」の一言がまちを明るくしていくのでは、と思う。子どもたちの「ありがとう」の声を聞いて、自分もいいなと思った経験がある。それ以来、自分も「ありがとう」と声を出すようになった。
- ・3男が障害児で生まれ1歳で亡くなった。その際に、色々な人のお世話になった。その恩返しをしたいと思っている。先日の車座の際にこのような会合に初めて出た。
- ・子供のケアマネが欲しいと思っている。
- ・エコ共済のしくみがよいと思っている。エコ共済は200円/月出資して、家事などのサポートが受けられるしくみ。手の空いている人が家事などを助けてくれる。自分の子供の介護の際に、60代の人が手伝ってくれたが、本当にありがたかった。介護で閉鎖的な気分になっている家庭に入ってもらって、精神的に健康になれた。近所の人手伝ってくれると（気を遣ったり、家の中を見られたりと）気を遣う部分もあるが、システムとして来てくれるのが良かった。同様のしくみを広げてほしい。色々なしくみに役立つと思う。
- ・人の話を聞ける姿勢が大事。
- ・自己実現に向けて走り、つなぐ人がいない。
- ・子育て親子と退職者のバトルをやりたい。不安で仕方がない人たちを会わせるセミナー。10年後に何が大事か見えてくるのでは。
- ・5、10年後に何がいるか、キーワードが出てくる。これから子育てしていくのに、宮前区がいいのか選択していく。
- ・広報のあり方について、行政が協力的でない。民間企業を圧迫すると言われる。



# 全市シンポジウム 「希望のシナリオ」

～これからの地域づくりを考える～



## ② 区ごとの意見交換

### 【多摩区】

- ・「基本的考え方」の構想は素晴らしい
- ・市には、柔軟に企業を使ってもらいたい。
- ・プロボノは土日の活動で、平日は主にメールのやり取りなので参加しやすかった。今までのボランティアは体力を使うものが多かったが、プロボノは知恵やスキルを使うもので、団体の支援にもつながると思う。1回限りだと参加もしやすい。
- ・「基本的考え方」は具体性がなく何を評価したらよいか分からない。
- ・若い人の参加について、1月に予定している催しをPRするため幼稚園児の送迎バスを待っている親に声掛けをしたが、なかなか話を聞いてもらえない状況であった。幼稚園で話をする方が良かったのか。
- ・「(仮称) まちのひろば」は地域での自主的な運営が基本だが、すべて自主運営で財源の裏付けがないと運営は厳しい。
- ・向ヶ丘遊園跡地を有効活用してもらいたい。
- ・宿河原小学校の寺子屋では、地域で応援している形をつくりたかったので、地元の7町内会に実行委員になってもらった。コミュニケーションを取れば動いてくれる。
- ・担い手にはどのような人を想定しているのか。
- ・「(仮称) ソーシャルデザインセンター」がどう機能するか、これから議論が必要。目標も話し合っただけでは決められない。
- ・「(仮称) ソーシャルデザインセンター」は悲願だが、公的な仕事をするのに自走を目指してといるところが理解できなかった。もう少し説明してもらいたい。
- ・「(仮称) ソーシャルデザインセンター」の創出は良いことだと思う。ただ中学校区に一つだと解決にならないのでは。小学校区以下に一つは必要だと思う。
- ・「(仮称) ソーシャルデザインセンター」の出先(サブの「(仮称) ソーシャルデザインセンター」)が各小学校区にあるのがよい。地ケアの活動もきめ細かく把握できる体制が必要。
- ・テーマやジャンル別に「(仮称) ソーシャルデザインセンター」を創出した方が良いのでは。
- ・「(仮称) ソーシャルデザインセンター」に関して、いろいろな人が集まっているので、組織的な結論が出せていないように見受けられる。大きな組織で何を決めるのか。
- ・今後、区ごとに「(仮称) ソーシャルデザインセンター」など検討していくということだが、区の企画課や地域振興課がどう進めていくのか。丁寧に進めて欲しい。
- ・中間支援について、行政職員は2～3年で交代となるので継続性の担保についてみんなで考えていく必要がある。若い人が引き継いでいけるしくみが必要
- ・これからは互助と共助が必要。町内会・自治会は小さな単位で活動しているが、参加したくてもしにくいところもある。
- ・町内会・自治会は昔からまちの発展に寄与してきたが、高齢化が進み体力的にもしんどいので若返りが必要。しかし若い人は役員を敬遠し加入しない。加入率を高めるためにもメリットや

リターンのある活動も必要。地域が子どもの成長を見守る必要がある。福祉の活動も担う必要がある。

- ・小さな町内会・自治会が困っているのは資金面である。
- ・若い世代は平日参加できず、こうした議論にも参加していないのではないか。たま音楽祭には若い人も関わっているが平日夜の会議は参加できず責任を持った活動がしにくい。区役所職員が市民に向けた活動を行うのも土日は動きにくいので、ローテーション等で土日も動けるようにしたらどうか。
- ・行政の縦割りは感じる
- ・財政的な支援について、活動に共感したら寄付できるようなしくみがあるとよい。需要はあると思う。
- ・「基本的考え方」について、教育委員会など市の他の部署で同じ認識を持っているのか。
- ・行政と区民とのキャッチボールを続けて欲しい。
- ・モデル事業、トライアンドエラーと言われるが、進捗具合や結果は市民に知らされないのでは。



# 全市シンポジウム 「希望のシナリオ」

～これからの地域づくりを考える～



## ② 区ごとの意見交換

### 【麻生区】

- ・現在の社会では、みんなでやろうという共助の流れがある中で、「市民創発」を捉えていけば良いのではないかと。
- ・今回の「基本的考え方」は、既存の行政の取組の限界を自ら認めた上で、市民の中で手を取り合ってまちのことを考える方向にシフトしていくということではないかと。
- ・自分自身も、市民活動を始めるまでは、市民活動を他人事のように感じていた。関心がない人たちに振り向いてもらうためのしかけをどうしたら良いかと考えている。他人事を自分事にしていくことが大事。
- ・できない人の内面をとらえて生きる力を備えるのが大事だと考えており、今回のコミュニティ施策に関する議論と、地ケアとの関係をどうしていくかに期待している。
- ・コミュニティ関連の取組は、これまでの取組を振り返りつつ、一から考え直す段階に来ているのかもしれない。
- ・区社協では地ケア絡みの会議に出るなど福祉分野で主に行政と関わっているが、コミュニティや区民会議とは縁が薄いので刺激になった。
- ・「基本的考え方」の中に社会教育の内容が欠落しているのは残念。現在の市民館が機能を果たしているかは議論が必要だが、地域づくりの基本であり大事な部分である。
- ・人材育成をしっかりとしないといけないと思う。
- ・新たな活動を生み出していくことが必要
- ・地域に多様性がある中で何を表に発信していくべきかを考えなければいけない。
- ・現在つながっていない人への啓発も必要。ボランティアだけでなく、まずは「楽しみましょう」からでも良い。
- ・「希望のシナリオ」ということだが、肯定だけではなく否定も必要だと思う。ポテンシャルのお話と理解したが、枝葉末節の話が多く柱が見えない。予算措置を取って進めていくのだろうか。
- ・創発とはいうものの、「市民にお任せ」に聞こえる。みんなで考えていく必要がある。
- ・計画は理解したが、実際はどうか。毎回、市はきれいな計画を立てているが、市と区のギャップ、行政と地域のギャップが大きいと感じている。
- ・区民会議でボランティアの担い手について議論し、社協で社会福祉のコーディネーター講座を受けた。小さな単位でやっていくこと、横のつながりを持つことが重要である。
- ・大学としても地域への開放を進めているがまだ不十分。教室など空いたスペースを地域で活用する方法を考えていきたい。
- ・神社や仏閣は衰退の一途をたどっているが、地域の間として活用することも考えられるのではないかと。
- ・「(仮称) まちのひろば」は、広範な意味合いがあり分かりにくい。認定制度は行わないとなると、「(仮称) まちのひろば」の機能を持つグループや集まりは今でもあるもので、それと何が違うのか。

- ・「(仮称) まちのひろば」について行政が関わるべきではないという表現はどうかと思った。行政が地域の中に入っていくスタンスが感じられない。
- ・麻生区に多い公園・緑地は「(仮称) まちのひろば」の役割を持つものであり、行政との協働・行政からの支援が必要
- ・6期の区民会議の経験で、交流拠点やPRが必要であり、積極的にやりたい人が多いと分かった。
- ・「(仮称) ソーシャルデザインセンター」は良い取組だし、自分自身も今後関わっていくことになるだろう。
- ・「(仮称) ソーシャルデザインセンター」は、第5期区民会議の「ボランティア情報センター」のイメージと近く、マッチングやよりどころ、という「(仮称) ソーシャルデザインセンター」のイメージが良かった。
- ・「(仮称) ソーシャルデザインセンター」については、これから話しながら決めていくことだと思うが、多様な意見を聞きながら、ボランティアセンターや、やまゆりをつなげるイメージになるのではないかな。
- ・「(仮称) ソーシャルデザインセンター」は、区民会議で議論した内容に近く、イメージが分かりやすい。一方、企業、市民それぞれの得意分野がある中で、誰がどう整理しマネジメントするか、という点がまだ見えない。
- ・「(仮称) ソーシャルデザインセンター」は、今後組織論にこだわらず、横で話し合うことが重要ではないかな。
- ・「(仮称) ソーシャルデザインセンター」についても、30代～40代の若手に関わってもらいしくみを考えなければならない。
- ・現在の麻生市民交流館やまゆりが良いか悪いかは別の話であるが、現状、やまゆりでも一部の「(仮称) ソーシャルデザインセンター」の機能を担っていると考えている。
- ・「(仮称) ソーシャルデザインセンター」や「(仮称) まちのひろば」は、良いと思う一方で、麻生区は活動力があり団体も多数あって、やまゆりや社協、市民館などをどのように一本化し、どのようにコーディネートしていくか、また包括支援センターや民生委員の想いなど、区のワークショップですり合わせしていく必要がある。
- ・「(仮称) ソーシャルデザインセンター」は、担当する人をどう育てるかが課題では。専門でやる団体を使うのか、スペース、人、マンパワーをどうするか。市民がやりたいことはたくさんあり、またそれが生きがい・やりがいにもつながっているが、それをどうまとめていくのか。
- ・「(仮称) ソーシャルデザインセンター」についても、100歳の健康長寿という面で、地域包括ケアシステムの施策との連携を考えていく場が求められているし、日頃の備えという面では、防災教育についても必要性が高いと感じている。
- ・私は地域包括で移動販売に携わっているが、町内会や企業を結びつけるだけでも大変。「(仮称) ソーシャルデザインセンター」だけでは無理。小さな自治体であれば、地域の人が行政の役割を担い、同質的なコミュニティを形成しているが、川崎市は規模が大きいので、その点も考えていかなければならない。
- ・「(仮称) ソーシャルデザインセンター」は是非つくって欲しいと思い、真剣に話を聞いていたが、市が立ち上げるのではないという最後の話にがっかりした。
- ・区民会議は協働でいろいろな意見を交わし、提案して課題解決を図ることが良かったと思うが、

その機能が今後どうなるのかが分かりづらい。地域という区よりも小さな単位を重視していくのは良いが、区全体にまたがる課題をどのように解決していくのかが明示されていない。

- 区民会議も、地域課題を話し合うだけでなく、勉強の場として捉えてはどうか。地域を好きになるきっかけとして、私にとって区民会議は良い機会であった。
- 現在、認知症やゴミ捨て場などの問題行動に、まず地域が気づくというところがある。
- 活動のための資金をこれまで行政に依存していたのが課題。行政の資金は限度があり、今後は、企業が地域のために出したいお金を市民とつなぐコーディネートができるようになると少し進めていけるのでは。
- 企業がどう絡むか、お金を生み出せるかが重要
- 施策の流れで縦割りになっていたコミュニティに横串を指すことが必要ではないか。
- 情報量がありすぎる。最終的なありかたや理想形についての話があるが、「道中」の説明がなかった。どこから取り組めばよいのか。絵に描いた餅。
- 説明を聞いたのは今回が2度目だが、区民会議がなくなることは分かったが、その他は何だか良く分からない。

